

山口県立華陵高等学校 令和5年度短編作品

ドラや いったん

はなおか まい

# 『Dra 焼き、一点でよろしいでしょうか？』作・華陵 舞

## 【上演情報】

令和五年度山口県高等学校演劇講習会 発表会上演

## 【あらすじ】

とある焼き肉店で、友人の恋愛相談に乗っていた女性。たまたま隣の席に座っていた食通の中年男性と親しくなり、焼肉の流儀やうんちくを聞くことに。実はその店を出されているお肉は牛肉ではなく、なんと「ドラ肉（＝ドラゴン肉）」だという。混乱しているうちに、店内で友人の想い人である職場の先輩と遭遇し、なぜか全員でドラ肉談議に花を咲かせることに……。

## 【上演許可申請先】

上演を希望する場合は、karyobutage.since1996@gmail.comへ左記を明記のうえ、ご連絡ください。

- ①上演作品
- ②目的（催物名、主催者名、会場等）
- ③公演日、上演回数
- ④対象観客（一般公開・配信の有無）
- ⑤入場料（有料の場合は金額も）
- ⑥担当者名および連絡先

※著作権使用料の入金先などは折り返しご連絡いたします。

Dra 焼き、一点でよろしいでしょうか？(高文連サイト用) .docx  
令和6年2月20日

【登場人物】

女性客 A  
女性客 B  
店員  
食通おじさん  
職場の先輩

某所焼き肉店。店内はそれなりに繁盛している。隣り合わせの席に、食通おじさんと女性客Aがそれぞれ一人で座っている。食通おじさんが一人で食事をしている。難しい表情でメニューを眺めたり、真剣な表情で網の上の肉を見つめたり、肉をかみしめながら時折恍惚とした表情を浮かべたりしている。少々不気味な雰囲気。Aは待ち合わせ相手(B)を待っているようで、携帯で電話をかけている。

A  
もしもし？ いまどこ？ うん。え、遅いから先に入ってるよ。だって意外と混んでるし……あとのくらい？  
うん。いや別にいいけど。え、うん……。

Aが電話している間に、やや愛想の無い店員が水を持ってやってくる。頭になぜかドラゴンのぬいぐるみに乗っている。Aは電話をしながら店員に会釈するが、店員の頭の上を二度見する。店員は何事もないように退場。AはBと通話しながら、ずっと店員の頭の上が気になって、視線で追っている。

A  
ああ、ごめんなんでもない。え？ 先に注文？ やだよ、まだあんた来てないのに。いやいや、あんた来る前に肉来ちゃったら嫌じゃん。そりやそうだよ。一人焼肉しにきたみたいじゃん。

食通おじさんは、自分のことをデイスられたと思って振り返る。

A  
嫌だよ。そんなリアル孤独のグルメ。イタイじゃん。

食通おじさんは、自分のことをデイスられたと思ってAの一言一言に反応している。

A  
いやいやいや、一人焼肉とかめっちゃさみしいヤツじゃん。はたから見ててイタイだけじゃん。(食通おじさんに

気づいて声を落として)あ。ごめんなんでもない。もー、わかった。じゃあ注文しとく。何頼んどく？(メニューを広げる)うん、うん、いやちよつとまってそんなに言われた覚えらんないから！(カバンの中からペンと紙を出してきてメモし始める)タン、ハラミ、あんたハラミ好きだねえ。いやまあ私も好きだけど。

食通おじさん、聞き耳を立てている。

A あとはミノ、丸腸、テツポウ、ハツ、あ、センマイあるよセンマイ。おう、いっとこいっとこ。センマイっと。

食通おじさん、聞きながら「ホルモンしか頼まんのかい」と驚いている。口出したくてうずうずしてるようで、Aにばれないようにメモを横から覗き込んでいる。

A こんなもん？ 飲み物は来た時でいいね？ ほーい、気を付けてきてねー。(電話を切って顔を上げる)

食通おじさんは慌てて元の位置に戻る。

A (店奥に向かって店員を呼ぶ) すみませーん。

店員再び登場。やはり頭の上にはドラゴンのぬいぐるみを乗せている。

店員 (不愛想に) はいご注文おうかがいしまーす。

A (店員の頭の上を気にしながら) えーっと。タンと、ハラミと……(メモを見ながら一通り注文する) ……以上で。

食通おじさん 「本当にホルモンしか頼まないのか」と驚いている。

店員 タンは塩とタレありますが。

A タレで。

食通おじさん 「いきなりタレかよ信じられない」といった様子でAを見ている。

店員 ご注文以上でよろしいでしょうか。

A よろしいです。

食通 よろしくない！

間

A え？(なんだ?)

食通 あ。(しまった)

店員 お連れ様ですか？

A・食通 いえ、違います。

A いぶかしかがっている。食通おじさん「しまったな」という苦い顔。

店員 (ちよつと面倒くさそうに)で、以上でよろしいですか。

A (食通おじさんを気にしながら)はい、大丈夫です。

店員立ち去ろうとするが、食通おじさんが呼び止め、何かを注文している。そこに女性客B登場。店員退場。

A (Bを見つけて) おーい、こっちこっち。

B ごめーん、遅くなっちゃって！(席につきながら) あ、注文してくれた？

A したした。なんか飲む？

B あんたは？

A とりあえずビール。

B じゃアタシも。(店奥に) すみませーん。

店員 (店奥から) はーいただいまー。

B ごめんねえ、こっちから誘っておいて。

A なんかあったの？

B いや、出がけに上司から電話あつてき。もう休みの日に電話してくんなよって。ごめんね。

A 大変だねえ。

店員登場。頭にドラゴンのぬいぐるみ。

店員 お待たせしましたおうかがいしまーす。

B (店員の頭の上のぬいぐるみを気にしながら) 生2つ。

店員 かしこまりましたー。(退場)

B (頭を指しながら) なにあれ。

A いや気になるよね。ドラゴン？

B あ、来年限年だから？

A だから？ 安直すぎない？

B それかあれかな、店の名前「焼肉昇龍」だから？  
A それでドラゴン？  
B 違うか？

2人、楽しそうに笑っている。店員、ビールジョッキと小鉢を持って戻ってくる。二人、笑いをこらえる。

店員 生2つと、キムチです。

キムチの小鉢を見つめる2人。

B あれ、キムチなんか頼んだの。

A いや、頼んでないよ。(店員に) あの、コレ頼んでないんですけど。  
店員 これはあちらのお客さまからです。(食通おじさんの方をみる) ごゆっくりどうぞー。(退場)

2人、食通おじさんを見る。

A え？

B どういうこと？

A (首を横に振りながら)

B (食通おじさんに) あの、これ。

食通 キムチというのはカプサイシンが多く含まれており、食欲を促進し消化を助ける働きをしてくれる。

A・B は？

食通 したがって、焼肉において非常に理想的な前菜といえる。

- A B (Aに) え、だれ？ 知り合い？
- A (Bに) ちがうちがう全然知らない人。
- 食通 私からのおごりだ。
- A おごりって言われても……。
- 食通 いいから、遠慮なく食べなさい。
- B あー、まあ、いいじゃん。おごってくれていうなら。(食通おじさんに) ありがとうございます、頂きます。
- A ええ……。(ややいぶかし気に食通おじさんに) 頂きます。
- 食通おじさん、やや満足げに頷く。
- B よし、乾杯しよう。
- A・B かんぱーい。
- 2人、ビールを飲む。
- A B くうう。昼間っから飲むビールは最高だねえ。
- A はああ。うま。
- B で、さっそく相談なんだけどさ。
- A ああ。なに？
- B ちゆきな人ができまらした。
- A またあ？
- B またってなに。
- A いやいや、だってあんた……。



A B A B A B A B A B A B A B A B A B A B A B

いやいや、今度は、マジだから。  
ほおおお。(探るようにBを眺めてから、にやりと笑って)聞こう。

食通おじさん、聞き耳を立てている。

実は最近異動してきた職場の一個上の先輩でえ。  
おお、手近なところ来たな。  
まじで仕事できる人なんだけどお、ぜんぜん気さくな人でえ。  
ふんふん。  
華奢に見えるんだけど意外と二の腕がたくましくてえ。  
いいねえ。  
笑った顔が富士蒼汰。  
最高じゃん。独身？  
独身。  
彼女は？  
最近別れた。  
最高じゃん。  
最高なのよ。で、アプローチしたいんだけど、一緒に作戦考えてよ。  
いいねいいね。相手はどういうタイプが好きとか情報無いの。  
元カノはゆるふわ系だった。  
ゆるふわ。  
なんかこう、全体的にパステルカラーで。  
パステルカラー。

B おしゃれカフェとかに居そうな感じ。  
A おしゃれカフェ。

AはBを上から下まで眺めて、大きくため息。  
店員、肉の皿を持って登場。

A 負け戦だな。

B なんでよ。

店員 お待たせしましたー。こちらタンタレ、ハラミ……

A (皿を受け取りながら) 恋愛相談しつつ焼肉屋来てビールあおってキムチうめえって言うてる時点でゆるふわ  
とは対極にあるんだよ気づけ。

B ぐお。

店員 ごゆっくりどうぞー。(退場)

A カフェランチより、ハラミが好きじゃんアンタ。

B 好きだけどお。

A (小皿や箸をならべながら) あきらめよう。

B (小皿にタレを入れながら) あきらめたらそこで試合終了じゃん。

A 試合始まってもないけどな。

B もー。ちゃんと真面目に相談乗ってよ。

A ごめんごめん。

B 今度デートに誘ってみようと思うんだよね。

A デートってどこ行くの。あ、じゃあ焼いていくね。

B おしゃれなバーとか？

A (肉を網に乗せようとしながら) えーそれはさすがに(いきなりすぎない?)  
食通 いきなりすぎる!

A え?

B やっぱいきなりすぎるかなあ。

食通 ものには順序というものがあるんだ。急いではことを仕損じる。

B なるほどお。

A いやいや。

食通 いいかい。一つの演劇だと考えてごらん。まずはサラダやキムチなどのサイドメニューから幕をあげ、脂身の少ない肉を塩やレモンで軽やかに展開していきながら、徐々に味やうまみの強いカルビやロースへとバトンタッチしてジュシーに物語を盛り上げていく。もちろん主役の肉たちを支えるのは野菜や白米といったわき役たちが欠かせない。そしてクライマックスに向かってより深みのあるホルモンがじっくりと焼き上がりながら迎える大団円。これこそが焼肉の流儀!

間。

B 焼肉の方か。

A いや別に焼肉は。

食通 なのに君たちはどうだ。前菜も注文せず、序盤のタンは塩ではなくいきなりタレから! いきなり網を汚すのではない! 果てはテーブル上はホルモンばかりのホルモン祭り! そんなに生き急いでどうするんだ若者よ!

A・B はあ。

食通 いいかい。順序や段階をおっていくことは大切なことだ。いきなり二人きりでおしゃれなバーに誘うのはいきなりホルモン祭りと同じだよ。最初は複数人で気軽にランチや飲み会を企画して少しずつコミュニケーションを取りながら距離が近くなってきた当たりで2人きりで会う約束を取り付けるといい。

店員が他のテーブルのグラスなどを下げて通りがかる。

B な、なるほど。

A 突然まともなアドバイスでできてびっくりした。

食通 (店員を呼び止めて) きみ、このお嬢さんたちにタン塩と上カルビ、あと野菜盛りを。会計は私の方につけてくれるかね。

店員 かしこまりましたー。(退場)

A いやそんなおごってもらうわけには。

食通 いいんだよ。若い人におごりたくなってしまうのは、おじさんのさがみたいなものだからね。

B あざまあす！

A 遠慮ないなあ。

B ありがたくおごってもらうのは若者のさがみたいものだからね。

食通 お、いうねえ。

B へへへ。

A 良い性格してるわアンタ。

B でしょ。あ、ちよっとトイレ行ってくるね。

B 店奥へ退場。

A あの、本当にいいんですか。

食通 ああ、いい、いい。気にしないで。この店の肉はかなり上質だからね。ぜひしっかり堪能して。  
A はあ。ありがとうございます。

食通 きみたち、この店は初めて？

A ああ、わたしは。あ、常連さんなんですか？

食通 (ちよつと得意げに) まあね。このドラ肉は非常に鮮度がいい。

A ドラ肉？

食通 実はこの店主はこの店の前に、東京の赤坂にドラ肉専門店を……。

A あの。

食通 ん？

A ドラ肉って何ですか？

食通 ドラ肉はドラ肉だよ。ドラゴン肉。

A ドラ……？

食通 ほら、その皿に乗ってるやつ。全部ドラゴンの肉だよ。

A ええ？ 何言ってるんですか、普通に牛肉ですよ。

食通 馬鹿言っちゃいけないよ。牛のタンや腸がそんなに大きいわけないだろう。

A (皿の上の肉を見て) 確かにめちやくちやでかいけど！ え？ ドラゴン？

店員、肉の皿を持って戻ってくる。

店員 お待たせしました。タン塩、上カルビ、野菜盛りです。

A (店員に) あの、すみません。これって、何肉ですか？

店員 タン塩と上カルビ……。

A じゃなくて、何の動物の肉ですか？

店員 あー、うちが取り扱ってるのは全部黒毛和龍ですね。

A ああ、黒毛和龍……え、りゅう？

店員 はい。メニューの最後のページに生産者書いてあるんで。(Aにメニュー表を渡す)ごゆっくりどうぞー。(退場)

A はメニュー表の最後のページを見ている。

A はああ？

食通 まあ、一口にドラ肉といっても厳密にはドラゴンと龍とは違うんだけどね。いまどき一般に流通しているのは東アジア原産だからドラゴンではなくて龍なんだよ。本物のドラゴン肉はなかなか出回らないからね。ドラゴンの原種というのとはもともと西洋が原産で……。(うんちく)

A はああ？

B 戻ってくる。

B ちよちよちよちよちようしようしよう。

A ちよちよちよちよちよいやいやいやいや。ちよと待つて。あんたドラ肉って知ってる？

B え？ ドラ肉？ うん。ここドラ肉おいしい店だから。

食通 そうだろうそうだろう。ドラ肉を極めるこの私が認めたお店だからね。この店は県内トップレベルの……。(うんちく)

A はああ？ 聞いていないし。

B え、言ったじゃん。ここ黒毛和龍の……。

A 黒毛和牛、だよね。

B 何言ってるんのギョウじゃないよ、リュウだって。

A はああ？

B ギュウとか。ウケる。

食通 ギュウの肉ではこれ程のうまみは出せないだろうねえ……。 (うんちく)

B ギュ、って、リュ、って、単に滑舌悪いだけだと思っじゃん！

B は？ 元演劇部の滑舌なめんよ。

A なめてないけど！

B そんなことより聞いてよ。

A そんなことって何。いやいや世界観わかんなくなって混乱してるって。私たちの住んでる世界にドラゴンなんかいたことあった？

B いたの！

A うそつけ！

B うそじゃないって！ いるんだって！ いま！ 一番向こうの席に！

A え、店内にドラゴンいんの。

食通 ドラゴンが？ どこ？ どこ？

B ちがう！ 先輩！

A え？

B 先輩がいたの！

A 先輩？ て、例の富士蒼汰？

B (ブンブンと激しく頷く)

A まじか (見に行こうとする)。

B ちよちよちよ (Aを止める) なに積極的に行こうとしてんの。

A え、気になるじゃん。

B やめてよ。こんなところ見つかったら超恥ずかしいじゃん。

A こんなところ？

B 女2人でビールあおってキムチ旨いっつってホルモン焼こうとしてるとこ！

2人、テーブルの上を見る。

A ああ(たしかに)。  
B ですよ。

A でも向こうも向こうで肉食ってんだし、別に気にしなくても……。  
B アンタが言ったんじゃんゆるふわの対極だつて。

A そりゃそうだけど。

食通 まあでも、プライベートで偶然会うというのはいいきっかけになるんじゃないかい。

A そうだよ。あ、せっかくだし、一緒の席で食べませんかっ聞いてきてあげようか私。

B ギャー！ やめてよコミュカルの鬼！

A なにいつてんの。チャンスじゃん。

B チャンスはピンチなんだよ！

A あんたそんなんでよくデートに誘うとか言ってたね。

B うううう、どうせ私はヘタレだよ。(肉を焼いて食べている)

A 恋愛に奥手すぎるだろ肉食女子なのに。

食通 良い食べっぷりだ。

B うるさいなあ。ふあああ！

A え、なに。

B ここここっち来た！

職場の先輩登場。B、メニューで顔を隠しながら、Aと食通おじさんの陰に隠れる。



反対側から店員も登場。

先輩 おー！（店員に）こんなとこいた。

店員 （そっけなく）おう。

先輩 ぜんぜんこっちの席顔見せてくれないから休みかと思ったじゃん。

店員 忙しいんだよこっちは。

先輩 てかなにこれ（店員の頭の上の被るものをいじる）。

店員 （迷惑そうに手を振り払いながら）店長の思い付き。商店街のイベントのなんとかで。

先輩 え、でもほかの店員さん誰もしてなくない？

店員 みんな汚れるし邪魔だって。

先輩 で、ひとりだけ律義につけてると。もー。まじめー。

店員 うるさいなあ。

店員 ねえ、一瞬だけ一緒に飲まない？ ◇◇来てるし。

店員 仕事中だよ。

先輩 もー。まじめー。そういうところ愛してるー。

店員 ばーか。

先輩、おちやらかながら店奥へ退場。2人の仲睦まじい様子を見せつけられて、Bは白目をむいて、すでに虫の息である。店員、反対側へ向かっていこうとするが、Aは思わず店員を捕まえる。

A ちよちよちよちよ。

店員 え、なんですか。

B 突然ごめんなさい、さっきの人とはどういう関係……。

食通 親しいお友達なのかな？

店員 (少し考えてやっとなり理解して) ああ。兄です。

間

B (先輩が出て行った先を指しながら) お兄さん？

店員 はい。

B (店員を指しながら) 妹さん？

店員 妹です。

一同安堵の声を上げる。

B (息を吹き返し) は！ 妹さん？ 妹さんなんですか！ じゃじゃじゃあああ、あのおお、つかぬ事をお伺い

たしますがああ……。

A 好きなタイプとか教えて下さい。

B 直球すぎる！

A こういうのははっきり聞かないと。

店員 私のですか？

A・B ちがう！

A お兄さんの！

店員 ああ。

A この子、お兄さんのことが好きらしくて。

B ちよつとやめてよ恥ずかしい。

食通 家族の情報は重要だからね。

A そうだよ、使える手はしっかり使わないと。

店員 あー……(少し考えてから、店奥へ向かおうとする)。

A・B・食通 (店員を止めて) ちよちよちよ。

A どこ行こうとしてんですか。

店員 本人に聞いてきます。

B ギャー！ やめてやめてやめて！

店員 でも本人に聞いてみないと。

A いやいやいや。

店員 私が勝手に答えて違ったらいけないし。

食通 きみは実に真面目な若者だね。

店員 それだけが取り柄なんです。

先輩、ハンカチで手を拭きながら戻ってくる。

店員 あ、ちょうどいいところに。兄ちゃんの好きなタイプって……。

A・B ギャー！(店員を押さえる)

先輩 え、なに。

店員 (Bに押さえられながら) いや、この人が兄ちゃんのこと……。

A・B ギャー！(口をふさぐ)

先輩 (Bに気づいて) あれ、●●さん？

B ひよ。

先輩 え、偶然じゃん。え、いつから居たの。全然気づかなかった。

- B ほほほんじつはおひがらもよく……。
- A きよどりすぎでしょ。
- 先輩 (Aに) 僕、●●さんの職場の同僚で、▲▲といます。
- A 友人の○○です。……失礼ですが、ちよつと笑って見せてもらっていいですか。
- 先輩 (ニコツ) これでいいですか？
- A 福士蒼汰に謝れ。
- 先輩 は？
- B ちよつと。
- A ああ、すみません。▲▲さんは、今日はその、ご友人と？
- 先輩 ええ。向こうで男友達と飲んで。真昼間から。
- A あ、私たちも。(ジヨッキを見る)
- B ちよつと！
- 先輩 昼間から飲むビールはたまらないですね。
- A わかります。ね。
- B (もじもじしてる)
- A 緊張しすぎ。
- 食通 立ち話もなんだから、座ってもらったらどうだい。
- B えええ？
- A そうですね。良かったらこっちに。
- 先輩 え、いいんです？
- A でもお友達待たせちゃ悪いですかね。
- 先輩 全然。むしろ僕の方がお邪魔しちゃったんじゃ。
- A 全然。むしろちよつとよかったというか。

B  
ちよっと！

食通 (店員に) あ、すみませーん、生4つ追加で。私のテーブルにつけておいて。

店員 かしこまりましたー。(退場)

先輩 えーいいんですか。

食通 いいんだよ。若い人におごりたくなるのはおじさんのさがみたいなもんだからね。

先輩 ははは太っ腹っすね！一生ついていきたい！(AとBに)ご家族の方？

A いえ、この店の常連さんで、今日たまたま仲良くなって。ね。(Bを肘で小突く)

先輩 そうなんですネ。

B (Aに小突かれて)せせせ、先輩もよく来られるんですか。この店。

先輩 うん、よく来るんだ。

店員、ビールジョッキを持って戻ってくる。

先輩 (店員を指さしながら) 妹が働いてるから、ちよくちよく。●●さんたちは？

B えーっと。

A 私は初めてなんですけど、この子がこの店好きらしくて。

先輩 えー、そうなの。(店員に) よかったね、店員サン。

店員 どうも。

先輩 おいしいよねこのドラ肉。

A だ、ドラ肉。

先輩 この店、結構珍しい部位も出してるから……。

食通 ここは県内で唯一ドラ肉を一頭買いで仕入れてるお店だからね。

先輩 お、さすが常連さん。詳しいっすね。

食通 ふふふ。まあね。ちなみに一頭買というの……(うんちく)

先輩 へええ。博識っすね。

食通 ふふふ(得意げ)。

先輩 あ、ちなみに僕のおすすめはねえ……。

メニューを広げた先輩の肩がBにあたり、Bは一人でどきどきしている。ドラ肉の希少部位や食べ方の話等で盛り上がる。

食通 (焼き肉などの手順等)やはり急いではこと仕損じる。何事にも順序というものがあるからね。

A 私たちもさっきもおじさんに怒られました。

先輩 怒られるって？

B いきなりタレで網を汚しちゃだめだ、順番が大切だって。

食通 焦らず順をおって楽しむのが一番。

先輩 なるほどねえ。まあ、でも、好きなんだったら段階とか順番とか飛ばしてがつついたっていいと思うよ。僕そう

いう食べ方、好き。

B そうですよ。(キュン)

食通 いやしかし、存分に楽しむなら……。

先輩 もちろん、段階踏んでしっかり楽しむのも、アリ。じゃないと味わえないこともありますからねえ。

食通 だよねえ。(キュン)

先輩の人たらし感も出つつ、ドラ肉話でさらに盛り上がる。

食通 若いのにきみ、なかなか通だね。

先輩 まじっすか。

食通 長年上質なドラ肉を追い求めてきたこの私が言うんだから間違いない。

先輩 やったあ。

食通 しかしね、さっきも言ったけど、一般的にドラ肉というけれど、通常市場に流通しているのは国産か中国産の龍だからね。本当は龍肉といわないといけない。厳密にドラゴンというのは龍としかって気性が荒いから管理が難しく養殖に向かないからねただ天然もののドラゴンというのも近年……。 (うんちく)

先輩 そうっすよねえ。まあ、ぶっちゃけ肉質はそんなに変わらないですけどね。

間。

食通 え？

先輩 え？

食通 き、きみ、もしかして、食べたことあるの？ ドラゴン。

先輩 あ、はい。

食通 天然もの？

先輩 はい。

食通 へ、へええ(自分は実は食べたことがないのに偉そうに語っていたことに動揺している)

先輩 ああ、でもドラゴンならやっぱ手羽元が……。

食通 ええええ、ちよっと待って。どこで食べたの？

先輩 え？

食通 本当のドラゴンの肉なんて市場に出回ることないじゃない、どどこで手に入れたの。

先輩 手に入れたっていうか、親の実家が九州の山の方なんですけど。よく夏休みとかに連れて行かれて。

食通 いやいやいや、ドラゴンの狩りには資格が必要なんだよ。

A そうなんだ。

先輩 あ、持ってますよ。狩猟資格。

B すご。

食通 (思わず変な声出ちゃった)

先輩 十八になったら速攻取得させられたんですね。きょうだいもみんな持ってる。

食通 ででもでもドラゴンの脾臓には猛毒があるからね。調理師免許のない素人が捌くのは事故の元……。

先輩 あ、持ってますよ調理師免許。あ、見ます？ 免許証。

食通 (また変な声出ちゃった)

A すごい。

B こんななんですね、免許証。

先輩 合わせて取っておくと便利だからって親父がいうからさ。まあ、確かに、その場で調理して食べたりできるからね。おいしいんだよね、獲れたてのドラゴン。特に……(旨いドラゴンの話) あ、興味ある？

B はい。

先輩 あ、じゃあ、今度の連休、実家に帰って狩りするんだけど、もしよかったら一緒に来る？

B え、えええええ？

先輩 あ、もちろん、いやじゃないかったら。

A ほら(肘で小突く)。

B いいんですか？

先輩 もちろん。じつはうち民宿もやってきて、来てくれたら大歓迎。〇〇さんもよかったら。

A え、でも私は。

B いいじゃん行こうよ。

A じゃ、じゃあ。

先輩 (店員に) あ、◆◆も行かない？ 久しぶりに。



店員 (通り過ぎながら) 連休は仕事ー。

先輩 まじめー。

食通 あ、あの。あの。(もじもじ)

先輩 あなたも。よかったら。

食通 いいの？

先輩 せっかくのご縁なので。

食通 やったあ。

A よかったですね。

B・食通 うん！

A、B、食通おじさん、先輩が盛り上がっている(無声)。別のテーブルに呼ばれた店員が足を止める。

店員 (客席に向かって) おまたせしましたー。では注文おうかがいします。

幕